



# Comfort Hearing みみよりNews

No.0018  
12.07.18

## ご挨拶

暑中お見舞い申し上げます。  
今年も忘れず夏がやってきました。原発の電気エネルギー不足から暑い夏が嫌われておりますが、太陽・自然エネルギーが少なくなる、冷温化になってしまったらどうでしょう。農作物・果物など壊滅します。

神話の国出雲地方に居ります当方、太陽の神々に感謝・感謝です。

写真は岡山県津山市の横野滝（二の滝）です。私は滝が好きで、1997年からこれまで70ヶ所へ100回以上出掛けました。当時滝にはマイナスイオンがあるとてはやされました。滝の次に好きなのは城です。北海道の松前城から沖縄の首里城まで約33ヶ城（櫓・復元天守を含める）に行きました。今後は体力を考え、山に登る滝は控え、城巡りをしたいと思っております。

またまた、病気の事、去年の食道腫瘍に続き、6月11日に大脳動脈瘤のクリッピング術を受けました。

健診を受ければ何かが現れる年令となりました。今後はのんびり進んで行く所存です。



岡山県津山市の横野滝（二の滝）

みみよりNEWS 第18号をお届け致します。  
今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。  
株式会社 中国補聴器センター 会長 福元儀智  
尚、御意見・御指摘 E-mail でお寄せ下さいますようお願いいたします。

## トピックス

- 【Ⅰ】補聴器販売経営者は意識改革を
- 【Ⅱ】メーカーは供給先・販売店を厳選し  
専門知識、設備充実を指導すべし
- 【Ⅲ】販売店・技能者はFittingの  
質を向上しよう
- 【Ⅳ】販売店経営者は二つの事項を
- 【Ⅴ】テクノエイド協会に再度のお願い
- 【Ⅵ】医療機関と連携し補聴器の  
適正供給の質を高めよう  
平野憲一様の訃報に接し

みみよりNEWSのバックナンバーは当社ホームページでご覧いただけます。

## 日本耳鼻咽喉科学会から求められる「補聴器適合に関する報告書」について

日本耳鼻咽喉科学会のホームページから耳鼻科医・補聴器相談医による補聴器適正供給への本格的関与が明らかとなった。“従来の補聴器の販売実態にしびれが切れた!!”との思いだろう。

### 【Ⅰ】 補聴器販売経営者は意識改革を

製造販売（メーカー）、並びに小売店の経営者は、この指針、指導書に真摯に対応する方策を早急に整え、実施しなければならない。特に販売店経営者は従来の甘い姿勢を改めねばならない。

### 【Ⅱ】 メーカーは供給先・販売店を厳選し専門知識、設備充実を指導すべし

1：日耳鼻から補聴器適合のため情報を提供されるのは原則「認定専門店」の「認定技能者」宛となっている。適正供給に賛同する工業会に加盟しているメーカーは、この事から、他の法令がどうあれ、これ以外の販売店へは供給を中止すべきである。

2：認定技能者の専門知識を深めるため最新の機能・応用の実質的研修を深めて欲しい。

テクノエイドの研修に期待したが、最新情報を持つメーカーが頼りである。

3：装置・設備の充実を指導して欲しい。

カウンセリングが行える十分な広さ・静かさの部屋、防音性は基より反響しない吸音性の大きい部屋。また多数入力音に対応する表示と印字機能の本格的補聴器測定装置、この必要性の説明と導入の義務を指導せねばならない。

4：2CCカプラーを基本とせよ

販売店・認定技能者の「補聴器に関する報告書」において当該機種最大の出力、最大音響利得（dB）はカタログ値での記入が必要。これはイヤシュミュレータ（ES）の値である。しかしながら出荷データ（JISで義務付け）は2CCカプラー値である。現在ESを使用しているメーカーも販売店も施設も皆無の様だ。聴覚医学会発表のデータもESは無さそう・・・。

06年5月に工業会・技術委員会に“使用しないESを棚上げし、2CCで整合すべき”と申し入れたが、JIS通りと・・・。

ヨーロッパの3大メーカーの1社の研究所でも2CCを使用しているのに・・・。

現に弊社でも2CCカプラーを開店以来愛用しています。

5：「補聴器適合に関する報告書」対応する測定装置の開発・選定

現在の認定販売店のほとんどは、入力60dB・90dBに対応するのみの簡易型測定装置である。

同報告書では50dBから90dB SPLまで10dBごとの出力特性を求められている。

（愚考では50・65・90dBで二ポイント、圧縮率が判明し十分でないか、と）

測定できない場合はパソコンからのプリントアウトでもOKだが、これも早急に指導して頂きたい。（これは販売店協会の問題でもある）

### 【Ⅲ】 販売店・技能者はFittingの質を向上しよう

難聴によるコミュニケーション障害をきたしている難聴者の聴覚障害状態を「診療情報提供書」より受け、標準聴力検査と耳鼻科所見情報、更には適合する補聴器の情報が提供される。

前号私信「みみよりNews」No.17に「標準聴力検査は、医療機関にお願いしよう」と述べた。私達技能者は医師からの聴覚情報に基づきFittingに専念すべきでしょう。歓迎すべき方向と思う。理想的な補聴器は親から頂いたもの「耳」に近づいたものである、との信念は変わりません。その条件は装着が簡単、負担感が少ない、操作も簡単（装着三原則）  
良く聞こえ、ひびがなく、ことばがわかる（聞こえの三原則）  
これら六原則に本人が評価・満足してくれてはじめてFittingが終結するものと思う。ご本人の満足が無ければ販売者や家族がOKと言っても、使用して頂けない。技能者が「これで良いでしょう!!」と云ってもダメです。

#### 【Ⅳ】 販売店経営者は二つの事項を

技能者のレベルを上げるべく教育・訓練の機会を与えて下さい。メーカーの商品説明セミナーはあまり役立ちません。聴覚医学会への入会、学会研究会参加、基本的にはしっかり補聴器学を研鑽させて下さい。

設備を充実して下さい。

補聴器は雑貨物と異なり精密な医療機器であり且つ高額製品です。単に笑顔でサービスが良いだけでは満足頂けません。医療機関との連携を深めるのは当然で、フィッティングに於ける情報を正確に報告する必要があります。補聴器適合に関する報告書で求められる補聴器諸特性が得られる装置を早急に充実・整備が必要となります。

#### 【Ⅴ】 テクノイド協会に再度のお願い      更新時訪問審査は止めて一

テクノイド協会は5年の更新期に訪問審査をしています。理由はカルテによる「Fitting状況の審査・指導」と云われるが、とんでもない事。これは「店」の問題ではなく、Fittingする者の資質の問題である。Fittingする者の資質向上が問われている。

小生が受講した更新講習会はあまりに酷かった。5年間の革新事項、改訂方向、改訂点、今後の方向等が全然示されなかった。

《補足》

物品やサービスの供給者はその評価が成績に直結しており、小生関係の旅館業ではネットのクチコミ評価・満足度が死命を制す現状です。補聴器業界では評価・満足度のアンケートを実施していません。テクノイド協会も販売者から多額の収入を得ており、そのサービスに対する評価を求めて欲しい。

更に言えば業界を代表して補聴器ユーザーの評価・満足度のアンケートを、主体性を持って行って頂きたい（回収・集計・公表を行う）。

#### 【Ⅵ】 医療機関と連携し補聴器の適正供給の質を高めよう

医療機関によるより正確な難聴情報を頂き、私達販売店・技能者は会話・コミュニケーションの向上に全力で努力して行きましょう。

## 平野憲一様の訃報に接し

日本補聴器販売店協会・初代事務局の平野憲一様の訃報に接し、唯驚き、悲しみに暮れるばかりです。1989年、機関誌Fitting2号に就任抱負挨拶文があり、懐かしく思いご紹介致します。協会発足間もない時、専用の事務所もない状態から初代会長・武田治男様と共に、私達、若い理事をリードして頂きました。同時期、小生・Fitting編集委員長に選任されましたが数々の助言を頂いたこと、思い出します。

この4月12日に上京の折、肺の調子が悪いとの事で入院中の中野の病院にお見舞いに行きました。こちらが心配するほど長い間、昔の出来事等、楽しかった事、そしてやはり販売店の今後について熱い思いを話をしてきたばかりです。

平野様はKKリオンの出身で行政・医療・教育関係に豊富な知識と見識をお持ちでご指導を頂きましたが、誠に残念です。恒例の東京“仲良会”、本年は「しのぶ会」となりそうです。葬儀に参列はできませんでしたが、遠くよりご冥福を祈り、安らかにお眠りされる事を願います。

合 掌



平野様 喜寿のお祝い  
仲良し会より京都名品の扇子を  
世話人の二人から

08.05.30

### 事務局長就任にあたって

全国補聴器販売店協会 事務局長 平野 憲一



長年の懸案であった補聴器業界の組織化も、まだまだ問題はあるものの、ここに全国の販売店の創意により当協会が発足したことは補聴器販売に大きな力を与えることになると思います。

関係官公庁、日本耳鼻咽喉科学会をはじめ、難聴者にならずさわる諸団体等の指導をいただき、また全国補聴器メーカー協議会と一体となり、補聴器販売の自主認定制度の確立を基盤とし、更に業界の資質向上を目標に、よりよい販売店となるよう努力しなければなりません。

このたび、はからずも当協会の正副会長および理事の方々のご推薦により、事務局をお引受け致しました。なにぶんにも事務的なことは未経験であります。協会の新しい道を開くため、会員各位のご協力をいただきながら、総力をあげ、各界との関係を密にし、協会の発展に努力致す所存であります。

よろしくお願い申し上げます。

機関誌Fitting2号より転載



CHG  
コンフォート補聴器グループ  
株式会社中国補聴器センター

ホームページ <http://www.chg.jp>